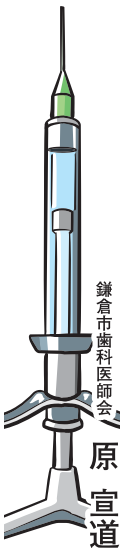


歯科の麻酔について



麻酔の注射で「歯医者嫌い」に

歯科ではしばしば麻酔を使用します。しかしながらいわゆる「歯医者嫌い」の理由に「麻酔の注射がイヤ」という話が多いようです。歯科治療は子どもから高齢の方まであらゆる年齢層の方に、また様々な基礎疾患のある方に対してもなされるものです。ですから歯科医は患者さんがなるべく痛みを感じることなく、かつ安全に治療が行えるよう麻酔についても様々な工夫をしています。

歯科に用いられる麻酔法には全身麻酔と局所麻酔があります。全身麻酔は侵襲の大きい口腔

外科手術や治療に協力が得られない小児や障がいのある方の治療の際に、大学病院などの専門施設で行われていました。一方、局所麻酔は歯科医院で日常的に行われている、むし歯などの治療の際に局所麻酔薬を口の中に注射する方法です。ご経験のある方も多いと思います。

リラックスして、臨むのが大切

多くの局所麻酔薬には麻酔効果を高めるためにアドレナリンという薬剤が添加されています。健康な方でもアドレナリン添加の効果により注射後に血圧上昇や動悸といった症状が現れることがあります。

科治療は「歯医者嫌い」の皆さんが想像されるほど痛くはありませんので、なるべくリラックスして治療に臨まれることが何よりも大切です。

恐怖を軽減する精神鎮静法

それでもなお、歯科治療に強い恐怖心のある方や、治療器具が口の中に入るだけで吐気を催す嘔吐反射の強い方などには精神鎮静法という麻酔が適しています。リラックス効果のある麻酔ガスを鼻から吸入したり、鎮静薬を点滴注射する麻酔法です。ウトウトした状態で治療を受けることができるので不安感や恐怖心が軽減されます。全身麻酔と異なり治療中の会話もある程度可能ですが、鎮痛効果はほとんどないので、通常、局所麻酔と併用して行われます。誰にとっても麻酔の注射はイヤなものですが、しかし快適に治療を進める為に時として不可欠です。もしも、それらに対する不安から歯科受診をためらっているとすれば、まずは歯科医とよく相談をすることから始めてみてください。

(原歯科医院)